

# 板書計画例

## 沖田か市「が」えらいのか？ 沖田か市「も」えらいのか？

記念ひ すいせん書

【資料1】

【資料2】

( 青年団員 ) さんを記念碑にして、いつまでもみんな  
で記おくすることをおすすめします。なぜなら、  
柏原の若者が工事を手伝ってくれたおかげで、10年以上  
かかる予定の工事を3年で終えることができたからです。

水

- ・小田山川
- ↓
- ・中の峠ずい道…トンネル
- ↓
- ・深道池…水をためる
- ↓
- ・用水路
- ↓
- ・柏原地区…米づくり

- ・1930年(昭和5年) 93年前
- ・国の文化ざい
- ・横90cm×たて110cm×長さ327m
- ・コンクリート
- ・沖田かー

誰がふさわしい？

- ・リーダー…オ
- ・賛成…アイカ
- ・前の準備…アイキ
- ・支えた人…エカ
- ・(最初) 反対…ウエ
- ・後の管理…ク

ア: 村長

カ: お金を出した村人

イ: 総代

キ: みぞを作った先人

オ: 沖田嘉市

ウ: 市の畑の人

ク: 水利組合

エ: 青年団員

- ・ 予習を兼ねて、事前アンケートに取り組みさせてください。
- ・ 副読本の119-122頁の本文を読ませてください。時間にゆとりがあれば、134頁まで図版を概観させてください。
- ・ 授業最後のアンケートで、「が」が多数の場合は、赤い沖田嘉市のカードを石碑の真ん中に、「も」が多数派の場合は、沖田嘉市のカードを石碑の周りに配置してください(上の板書は「が」のケースです)。
- ・ 板書は、クラスの実態に応じてアレンジをお願いします。







# 登録有形文化財 なか 中 た の お 峠 ずい 隧 どう 道

平成12年4月28日 登録

西条町郷曾の<sup>かしょうばら</sup>柏原地区は、文化年間（1804～1818）に広島藩の指導で約50haの開墾がはじまり、その水源として<sup>ふかどういけ</sup>深道池が築られました。しかし、この池は集水面積が狭く、一度干上がると満水になるまで数年かかるため、長い間干害に悩まされていました。

そこで、柏原地区の村民であった<sup>おきた かいち</sup>沖田嘉市が農業用水路として、<sup>こ た やまがわ</sup>小田山川から深道池まで延長約1.5kmの水路建設を計画しましたが、その一部には隧道が必要となりました。昭和2年から沖田が一人で隧道の掘削を始めましたが、終わり頃には多くの村人が協力し、昭和5年8月に完成しました。隧道は、全長327m、幅員0.9m、高さ1～1.2mを測る素掘りのものです。当時は、坑口のアーチを石積みやレンガ積みで行ったものが多い中で 戦後に普及するコンクリート工法を早くから採用しており、意匠的にも珍しいものです。現在も農業用水路として、地元の人々によって護られています。

東 広 島 市 教 育 委 員 会

Nationally Registered Tangible Cultural Property Nakanotao Tunnel

Kashobara area in Goso, Saijo-cho, reclaimed the land under the direction of the Hiroshima clan during the years 1804~1818, and for its water sources they built the pond, Fukadoike. People, however, suffered from drought damage for a long time because it took some years to fill the pond with water once it ran dry. Therefore, OKITA Kaichi, a villager of Kashobara area, planned to build an irrigation canal of 1.5km from a river to the pond. This canal needed a tunnel for a part of it, so they started to dig a tunnel in 1927 and completed it in August 1930. The tunnel which was 327m long, 0.9m wide and 1~1.2m high, used a concrete construction method which was rare in those days.

# 郷田村の村長

沖田嘉市は、1926年春、郷田村の村長土肥岸太郎にずい道をほりたいと相談をもちかけました。村長は、沖田の「人の役に立ちたい」という気持ちを理解しました。

しかし、小田山川の水をゆう先的に使ってきた市の畑地区の人は、工事に反対しました。ずい道ができると、水がとられるのではないかと考えたからです。土肥村長は、ねばり強くせつとくを続けました。

話し合いの結果、水田で米づくりをしない秋から冬にだけ、小田山川の水をずい道に流すという約束で、工事を認めてもらいました。

土肥村長が、市の畑地区と柏原地区の話し合いをまとめてくれたことで、ずい道工事を始めることができました。



柏原地区の場所

# 柏原の水管理団体の総代

沖田嘉市はずい道をほりたいという強い願いをもっていました。柏原地区の人たちの意見は一つにまとまりませんでした。「工事の道具ぐらいは地区で買ってあげてはどうか」という意見もありました。しかし「成功するかどうか分からない工事にお金は出せない」「工事は失敗するに違いない」という意見もありました。

そこで、沖田をおうえんしていた水管理団体の総代 古田甚太郎は、なんども話し合いの場を持ちました。

話し合いの結果「柏原地区のお金は使わない。工事をやめるときは沖田がお金を出して元通りにする」という条件付きで工事が認められました。1927年3月のことでした。

A solid blue rectangular box containing the text "田んぼの様子".

田んぼの様子

A solid blue rectangular box containing the text "畑の様子".

畑の様子

今の柏原地区の田や畑のようす



# 市の畑地区の人々

小田山川のまわりの市の畑地区の人たちは、川の水をゆう先的に使うけん利をもっていました。人々は、この水を使って米づくりをしてきました。

1926年の春、市の畑地区の人々は、中の峠ずい道の工事が計画されていることを知りました。ずい道ができると、小田山川の水が、深道池や柏原地区にたくさん流れていってしまいます。そこで人々は、工事に反対することにしました。

しかし、柏原地区の水不足の苦労も分かります。話し合いの結果、水田で米づくりをしない秋から冬にだけ、小田山川の水を深道池にためてよいという約束で、工事を認めました。

市の畑地区の人々の協力で、1927年3月からずい道工事を始めることができました。



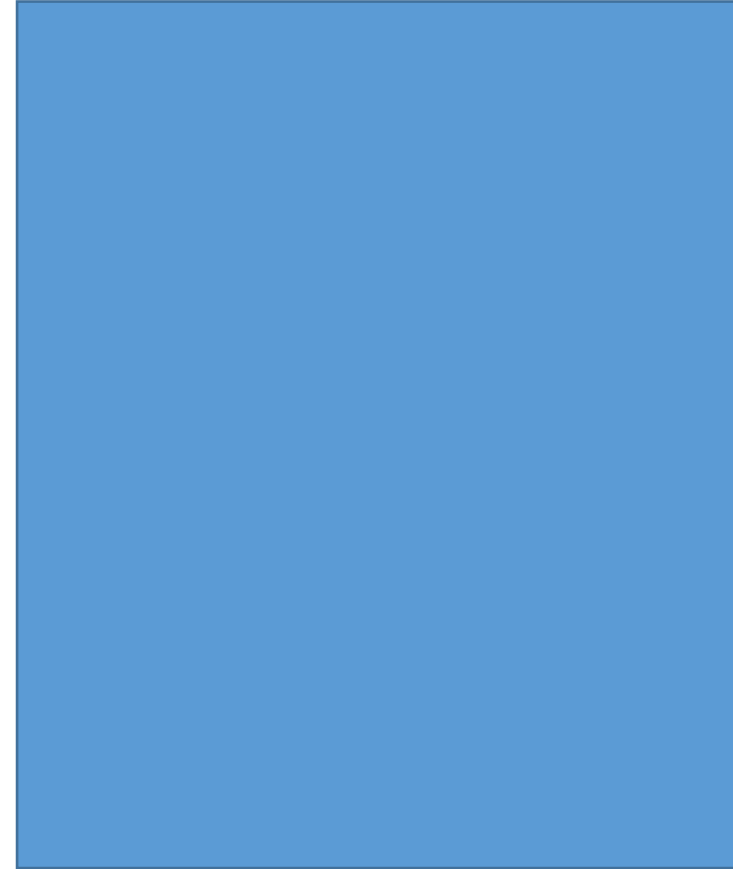
市の畑地区の場所

# 柏原の青年団員

1927年から沖田嘉市は、たった一人ですい道の工事を始めました。まず北側から1日3cmのペースで掘り進めました。

青年団員の人たちも、手伝おうと思いましたが、仕事があまりに大変で2日と続きませんでした。しかし、1929年に日照りが続き、柏原地区では米はほとんど取れませんでした。若者たちは、深道池に水をためることの大切さを実感しました。

そこで青年団の人たちは、沖田に仕事を手伝えることを申し出ました。工事は300mほど残っていましたが、次の年の1930年には、すべて開通させることができました。完成まで10年以上かかると考えられていたすい道工事は、わずか3年で終わることができました。



すい道が開通した時の写真。矢印は沖田さん

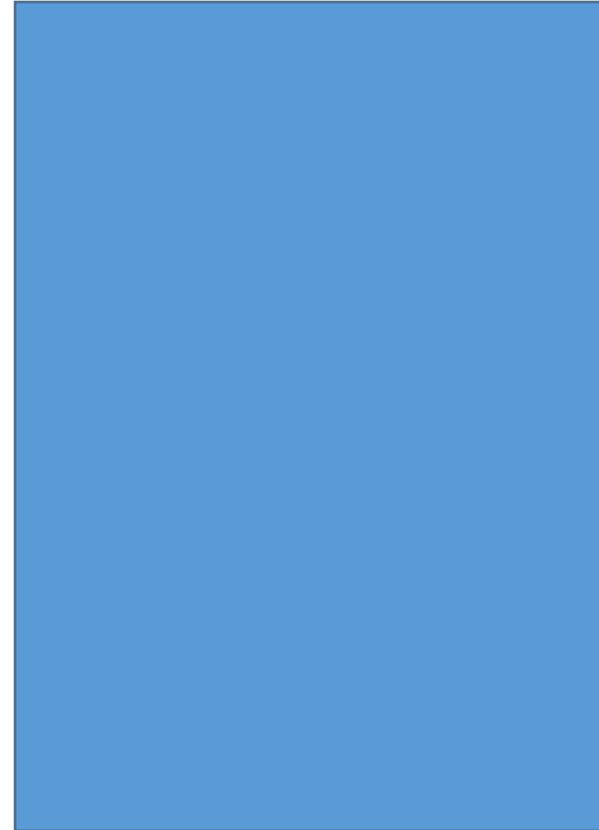
『令和4年度版小学校社会科副読本わたしたちの東広島市』東広島市教育委員会，2022年，より引用。

# 沖田嘉市

柏原地区は、日照りが続くと水が不足し、田植えができない土地でした。沖田は、水のなくなった深道池を見て、小田山川の水を引き込む必要性を感じました。そして、残りの人生をその工事にかけようと決意しました。53才のときのことです。

いろいろな人に認めてもらい、工事を始めたのは1927年の春でした。しかし、工事開始を祝う起工式に出席してくれたのは、わずか4人でした。

沖田は、朝から夕まで一人でほり続けました。1929年ごろから地区の人たちが手伝ってくれるようになったので、ずい道の工事はその人たちにまかせました。沖田は食事を用意したり、別の水路をほったりして、仕事を分担しました。1930年8月、327mのずい道は無事に完成しました。



沖田嘉市さんと沖田を記念した碑（ひ）

左：『令和4年度版小学校社会科副読本わたしたちの東広島市』東広島市教育委員会，2022年，より引用。右：広島大学EVRI撮影



# お金を出した村人

中の峠ずい道を作るのには、当時のお金で2700円（今のお金に直すと、1500万円ぐらい）かかりました。

このお金は、岩をほるプロの職人（石工）をやとうのに使われました。ダイナマイト※やコンクリートを買う費用にも使われたと考えられます。

このお金は、沖田嘉市だけでなく、柏原地区の村人も出したようです。お金を出した人の名前の記録は見つかっていません。しかし、そういう人がいたから、工事のスピードを速めることができたと考えられます。

※ダイナマイトとは、爆発する力で岩をこわすことができる特別な火薬です。



中の峠ずい道の入り口  
ダイナマイトのイラスト



# 水集めのみぞを作った先人

深道池には、近くを流れる荒谷川から水を引き込むみぞがありました。みぞは、中の峠ずい道ができるよりも前に作られたと考えられています。

みぞは長さ2.2kmあり、山の中につくられています。みぞができたおかげで、深道池には、自然にたまる水だけでなく、もっとたくさんの水がたまるようになりました。しかし、それでも柏原地区の水は足りませんでした。

沖田嘉市は、みぞのことを知っていたはずで、深道池に川の水をひいて水をためると水不足を解決できるというアイデアは、先人が作った「水集めのみぞ」から学んだのかもしれない。



中の峠ずい道よりも前に作られた水集めのみぞ

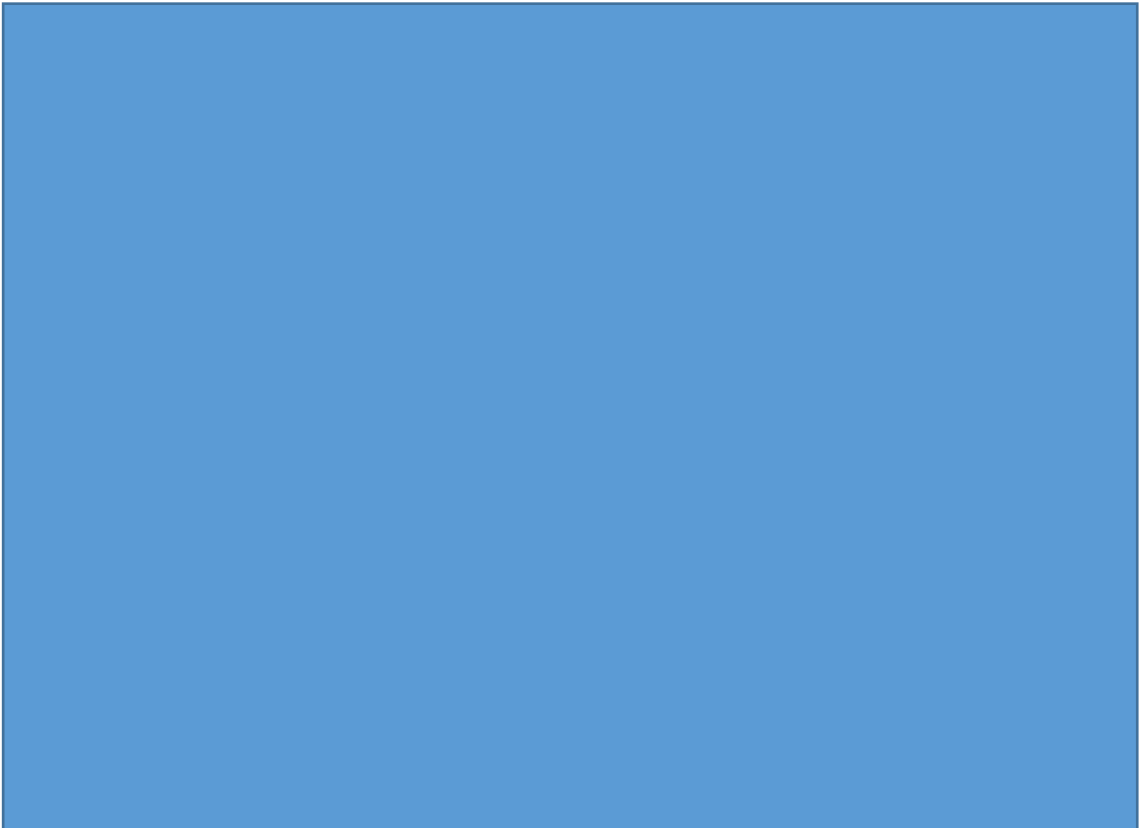


# 柏原の水利組合

深道池には、秋から冬にかけて小田山川から水を引き込んで中の峠すい道を通して、水をためておきます。池の水は、春から夏の米づくりに使われます。

もし、すい道や水路に土やゴミがたまっていると、水は柏原地区まで届きません。そこで、すい道のそうじを年に1回、水路のそうじや草かりを年に2回しています（最近、すい道がこわれる危険（きけん）があるので、中まで入ってそうじはしていません）。

この仕事は、水利組合の人たち約80名で協力して行っています。柏原で農業をしている人たちは、すい道や水路が長く使えるように努めています。



水路のそうじや草かりをする水利組合の人たち

柏原水利組合提供

資料4

( )さんを記念碑にして、いつまでも記おくすることをすすめます。なぜなら、

資料5  
資料6



ア:村長

オ:沖田嘉市

イ:総代

カ:お金を出した村人

ウ:市の畑の人

キ:みぞを作った先人

エ:青年団員

ク:水利組合